



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.90



齋藤 千秋

「看護覚え書」を読む

保健福祉学部 看護学科

講師 齋藤 千秋

大学では、今年も4月に新入生の皆さんを迎えました。これから新入生の皆さんと一緒に「看護覚え書」をもう一度読むことを楽しみにしています。5月12日は「看護の日」でした。この日は近代看護の基礎を作ったといわれるフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで制定されました。そして1860年に出版された『看護覚え書』は、ナイチンゲールの代表的な著作です。学生時代に初めて読んだとき、具体的な事柄が書かれているのに、とても難しく感じました。当時の自分には、健康や人間、環境という言葉が十分に理解できなかったからだと思います。この本は現在もたくさんさんの看護師養成機関で教科書として使われています。看護における古典ともいえる著作でしょう。

100年以上も昔に書かれた本が、今も教科書で読まれていることを不思議に思われるかもしれません。この本には「看護はなにをなすべきか」「病気にかからないような、あるいは病気から回復できるような状態にからだを整えるための知識とはなにか」が書かれています。また療養する環境を整えることや病人を注意深く観察することの大切さに触れています。これらの内容が現代においても新鮮であり、豊かであるため教科書としてあり続けるのではないかと思えます。ここに看護の原点があり、看護についての考えが、深い人間理解に基づいているからではないかとも思います。生物としての人間は、自然の一部分であるという共通点を持ちますが、同時に生活者としての人間は、1人

として同じ人がいないというユニークな存在でもあります。「看護覚え書」を読むことは、そんな人々の健康をどのように支えるのかを考える機会になるのです。例えば、看護がなすべきことを「看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさなどを適切に整え、これらを活かして用いること、また食事内容を適切に選択し適切に与えること、こういったことのすべてを、患者の生命力の消耗を最小にするように整えること、を意味すべきである」と述べています。病人を取り巻く環境は大きく変化しました。医療はとも進歩しましたが、病人自身が病気を治そうとする力、回復する力が重要であることは、今も変わりません。

やおおよその内容を知らなくても、忘れているところや十分に理解していなかったところがあります。おおよその内容を知っているからこそ、気持ちに余裕を持って読むこともできます。さまざまな経験を積むことで、初めてしっかりと納得できる内容もあります。読み手に学ぶ準備が整っていないと、学べないのでしよう。「看護覚え書」を読むことは、忘れかけていたことを思い出し、また新たに学ぶ経験です。

これも繰り返し手に取る本、看護師はどのように行動しがちか、どのように行動することがふさわしいのかについて書かれた「ナイスのルール347」があります。346番目のルールは「フローレンス・ナイチンゲールの『看護覚え書』…本当の看護とそうでない看護」を読みなさい」です。

※引用文献

フローレンスナイチンゲール著
看護覚え書―看護であること
看護でないこと(改訳第7版)
湯槇ます他訳 現代社
ナイスのルール347
井部俊子訳 南江堂



大学図書館へようこそ！

大学では6月から少しずつ対面授業が始まる予定としていますが、まださまざまな制約があり、通常の大学生活に戻れるのはもう少し先になります。

【6月以降の利用について】

・6日以降に在学生の通常利用が開始になりますが、「密」の状態を避けるため、学外の皆さまは当面の間、利用することができません。今後の利用は大学HPなどで随時お知らせします。(https://webopac.nayoro.ac.jp/)

◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)

大学図書館にはこんな本があります

～く「知」への誘い～からもう1歩～

ナイチンゲールに関する図書を紹介します。

『ナイチンゲールの「看護覚え書」イラスト・図解でよくわかる！』

金井一薫/編著 西東社

→ナイチンゲールの思想を現代の看護に合わせ、わかりやすく解説しています。

『ナイチンゲールって、すごい』

エキスパートナース編集部/編 照林社

→医師・看護師・建築家・作家などさまざまな分野の人物が語るナイチンゲール像。『看護覚え書』を読む参考になります。

『統計学者としてのナイチンゲール』

田尾清子/著 医学書院

→データ収集とその分析を看護実践に生かした、統計学者としてのナイチンゲールの業績を紹介しています。